

【評価区分】Ⅳ：年度計画を達成している（達成率100%）Ⅲ：年度計画を概ね達成している（達成率80%以上）Ⅱ：年度計画を十分には達成できていない（達成率60%程度以上）Ⅰ：年度計画を達成できていない（達成率60%程度未満）									
第3期中期計画	評価 区分	令和5年度実績	令和6年度計画	評価 区分	令和6年度計画達成状況	評価 区分	自己点検・評価委員会	評価 区分	内部質保証推進会議
5. 学生の受け入れ 【計画27】（入試事務部） 本学の理念・目的及びそれに基づく「入学者受け入れの方針」を、様々な方法を通じて社会に周知するとともに、社会状況や時勢に基づく検証を行い、必要に応じ改善を図る。 「計画達成のための方策」 1. 大学の理念・目的及び「入学者受け入れの方針」を学生募集要項、本学ウェブサイトで公表する。さらに、各種の学生募集イベントやオープンキャンパスで受験生・保護者等への周知を図る。 2. 入学者選抜の方法の変更にともない、「入学者受け入れの方針」の事項の見直しを行う。 3. 高大接続システム改革に基づき、学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針を踏まえた「入学者受け入れの方針」において、学力の3要素①知識・技能、②思考力・判断力・表現力等、③主体性を持ち多様な人々と協議しつつ学習する態度に関し、入学希望者に求める能力の適切な判定ができる入学者選抜の改善を図る。 4. 高校での新学習指導要領に基づく令和7年度入学者選抜に向け、入学者選抜方法・実施方法等についての検討を行う。あわせて、共通テストでは実施せず、各大学での検討事項となった①記述式問題 ②英語の民間資格・検定等の利用についての方向性を定める。	Ⅲ	1. 学生の受け入れにあたっては、学部学科・大学院の理念・目的及び「入学者受け入れの方針」を学生募集要項に明示するとともに、本学ウェブサイトにおいても公表し、社会に周知を図るとともに、受験生及び関係者等に進学ガイダンスやオープンキャンパス、高校教員対象説明会等各種イベントで説明し、周知を図った。 2. 令和5年度実施の総合型選抜では、医療保健学部医療情報学科の選抜方法について、これまでの探究型、資格保有型に加え、面接員との対話と本人の気づきを重視する面接重視型を追加した。また、立川看護学部について、入学者選抜の多様性の観点から、自己推薦書、事前課題レポート、面接で評価を行う総合型選抜を導入した。このことにより、全学部で総合型選抜を実施することとした。 ・令和5年度実施の一般選抜では、A日程について、競合校との重複を避けること、受験の幅を広げること、何より志願者の一層の獲得を目的として、首都圏で2日間を通して実施することとした。また、医療栄養学科の選択科目に国語、数学、化学基礎・生物基礎を追加した。医療保健学部医療情報学科においては、英語の必須を廃止し、6科目からの選択受験で高得点科目重視方式に変更した。 ・令和5年度実施の大学入学共通テスト利用入試では、受験生が受験しやすい科目とするため、医療保健学部医療情報学科の受験科目を英語を含めて全科目選択科目とし、高得点科目重視方式に変更した。 ・これら入学者選抜方法の変更にともない、入学者受け入れの方針についても併せて見直しを行った。 3. 令和5年度実施の入学者選抜においては、昨年に引き続き和歌山看護学部の一般選抜特別日程にて記述式問題を実施した。令和7年度入学者選抜の変更において記述式問題を全学的に導入するための検討を継続的に行う。 4. 新学習指導要領に基づく令和7年度入学者選抜の実施については、アドミッション委員会において、説明会を開催するなど、その方法・内容の検討を継続的に行った。	Ⅲ	【年度計画27】 1. 学部学科・大学院の理念・目的及び「入学者受け入れの方針」を学生募集要項、本学ウェブサイトで公開する。各種のイベント、オープンキャンパスでの周知と浸透を図る。 2. 入学者選抜の方法の変更にともない、「入学者受け入れの方針」の事項の見直しを行う。 3. 前年度に引続き、前年度計画記載の高大接続システム改革に伴う記述式問題の実施等の継続検討を行う。 4. 令和7年度新学習指導要領に基づく入学者選抜を実施する。その際、入試における記述式問題の実施内容、実施方法を明確にして、実施する。また、英語の外部資格・検定の利用についても、部分的な入学者選抜への利用などを具体化する。	Ⅲ	1. 学生の受け入れにあたっては、学部学科・大学院の理念・目的及び「入学者受け入れの方針」を学生募集要項に明示するとともに、本学ウェブサイトにおいても公表し、社会に周知を図るとともに、受験生及び関係者等に進学ガイダンスやオープンキャンパス、高校教員対象説明会等各種イベントで説明し、周知を図った。 2. 令和6年度実施の令和7年度総合型選抜では、医療保健学部医療栄養学科、医療情報学科において、前年度まで9月、10月、11月、12月、3月の5回の総合型選抜を実施していたが、受験者数の減少もあり、令和6年度実施の総合型選抜より、9月、10月、12月の3回に集中して実施した。また、千葉看護学部看護学科では、地域指定（千葉）として実施していたが、JCHO病院との協働による入学者受け入れの方針に添った入学者の確保推進を目的として、総合型選抜（JCHO病院指定）を実施した。 ・一般選抜及び大学入学共通テスト利用入学試験では、入試日程について、昨年度は、A日程1日目、A日程2日目、B日程、C日程、特別日程（和歌山のみ）、大学入学共通テスト利用入学試験（前期）、（後期）と実施していたものを、A日程、B日程、C日程、特別日程、大学入学共通テスト利用入学試験の5日程とすることにより、高校生の年内入試への意識の高まりや一般選抜の受験者の減少に対応し、入学者の早期獲得を目指した。 ・また、立川看護学部看護学科の一般選抜A日程の選択科目について、受験者が受験しやすい科目とすることにより、より一層の志願者の確保を目的として、現行の選択科目（数学、生物、化学、生物基礎・化学基礎のうち1科目を選択）に国語を加えるよう変更した。 3. 一般選抜特別日程は、昨年度まで和歌山看護学部のみで実施してきたが、私立大学等改革総合支援事業補助金の獲得を目指し、令和6年度実施の特別日程より全学で記述式の問題（英語、国語）や面接を取り入れた入試を実施した。 ・英語の外部資格・検定の利用については、本学の受験生に合ったものとするため、利用する資格・検定の種類や点数換算の方法など検討している。英語の外部試験を導入する大学が増えてきていることもあり、他大学の状況を調査しつつ、引き続き検討していく。 4. 新学習指導要領に基づく令和7年度入学者選抜の実施については昨年度実施済み。			

第3期中期計画	評価区分	令和5年度実績	令和6年度計画	評価区分	令和6年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
「評価指標」 ・学力の3要素に基づく入学者選抜の実施状況 ・令和7年度入試に向けた準備・実施状況及び検証 ・記述式問題の実施、英語の外部資格・検定等の利用についての検討状況、実施状況 【計画28】（入試事務部） 入学者選抜試験の実施内容について、学部・研究科等の特色・特徴等を踏まえた改善・充実を図る。 「計画達成のための方策」 1. 入学者選抜試験問題について、「入学者受け入れの方針」に基づき適切に作成することとし、試験問題にミス等が生じないようチェック体制を徹底する。 2. 入学者選抜試験会場において、入試実施上の注意事項の徹底を図るとともに、試験監督を厳正に行う等入学者選抜試験を公正かつ適切に実施する。 3. 入学者選抜における合否判定を公正に行い、入学者選抜試験関係業務を適切に実施する。 「評価指標」 ・入学者選抜における作問ミスの発生防止の取組状況 ・入試実施にともなうトラブル等の発生防止の取組状況	IV	1. 入学者選抜試験問題の作問ミス、解答ミスの防止や公正な試験運用に関しては、十分に注意を払い実施し、外部の第三者機関による査読、問題チェックを経て作問者が各日程の試験問題を作成し、学内入試担当委員での最終確認を行うことにより、出題ミスの発生防止に努めた。 2. 入試実施においては、実施要項、監督要項を作成するとともに学内で教職員に対する説明会を実施し、円滑な入試実施に努めた。 3. 研究科の入試については、選抜方法や日程等については、学部長等会議及び大学経営会議において、審議・決定した。	「評価指標」 ・令和7年度入試を念頭においた「入学者受け入れの方針」の見直しの状況と結果 ・令和7年度入試での記述式問題の検討結果と実施内容 ・英語の外部資格・検定利用の検討結果 【年度計画28】 1. 一般選抜においては、作問者の作成した試験問題を、外部の第三者機関による査読及び問題チェックを実施し、作問ミス、解答ミスの撲滅に努める。さらに入試担当委員が最終確認を行い、ミスの発生を防ぐ。また総合型選抜、学校推薦型選抜の入試においても、各学科の入試担当委員が水際のチェックを行い、ミスが生じないように努める。 2. 入試実施にあたっては、実施要項の熟読、教職員向けの説明会等により、入試実施上の注意事項を徹底する。 3. 研究科の入試については、研究科ごとに実施しており、選抜方法や日程等については、学部長等会議及び大学経営会議において、審議・決定する。 「評価指標」 ・入学者選抜における作問ミス等の発生防止の取組状況 ・入試実施上のトラブル等の発生防止の取組状況	IV	1. 入学者選抜試験問題の作問ミス、解答ミスの防止や公正な試験運用に関しては、十分に注意を払い実施し、外部の第三者機関による査読、問題チェックを経て作問者が各日程の試験問題を作成し、学内入試担当委員での最終確認を行うことにより、出題ミスの発生防止に努めた。 2. 入試実施においては、実施要項、監督要項を作成するとともに学内で教職員に対する説明会を実施し、円滑な入試実施に努めた。 ・入試当日に受験生からの質問や試験監督者からの問い合わせについて、その場で入試実施委員と協議し、適切な回答をすることにより、トラブルに発展しないよう努めた。 ・年度終了後には、各学部に入試実施に関する振り返りを依頼し、出てきた課題や意見を次年度の入試運営に反映できるように実施した。 3. 研究科の入試については、選抜方法や日程等については、学部長等会議及び大学経営会議において、審議・決定した。				

第3期中期計画	評価区分	令和5年度実績	令和6年度計画	評価区分	令和6年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
【計画29】（入試事務部） 学部・研究科等の入学定員に基づき、適切な入学者数を受け入れるとともに収容定員の適正な管理に努める。 「計画達成のための方策」 1. 学部入試における全学部・全学科の入学定員達成をめざす。そのための各入試区分での学生募集、出願者増に向けた活動に注力する。 2. 収容定員割れとなっている医療栄養学科、医療情報学科の収容定員充足を図る。 3. 収容定員の充足のため、入学定員の達成とともに退学者動向も視野に入れた取組を行う。	Ⅱ	1. 2. 新型コロナウイルスによる制限が概ね解除となり、入試広報部を中心に高校訪問や講演・ガイダンスを積極的に行った。また、入試広報部と各キャンパス連携のもと、在校生との交流や学びを体験できる企画を取り入れた来校型イベントを実施し、看護学科においては収容定員を踏まえた入学者を確保することができた。 ・令和4年度は入学者65名と大幅に募集定員を下回った医療栄養学科では、令和6年より管理栄養学専攻と臨床検査学専攻を新設し定員を管理栄養学専攻68名、臨床検査学専攻32名と分けて募集を行った。管理栄養学専攻では毎月のイベントにおける企画内容の精査と参加者のフォローアップを徹底し入学者66名と定員充足までもう少しのところまで健闘したが、臨床検査学専攻においては認可申請による広報活動開始の遅れも影響し、入学者14名と募集定員を下回る結果となった。また、医療情報学科においては受験しやすい入試とするべく総合型選抜における面接重視型の追加や一般選抜選択科目の変更などの入試改革を行ったが、入学者33名と定員を大きく下回る結果となった。 ・今後の改善としては、医療情報学科の改組を皮切りに、医療栄養学科と併せ、令和7年度入試の内容の見直し、イベントの精査、広報ツールの検討など募集定員充足に向けての取り組みを強化していく。また、特に医療栄養学科臨床検査学専攻においては認知拡大からイベント集客、出願にまでつなげることができるよう、広報活動を強化していく。	【年度計画29】 1. 入学定員を全学部・全学科及び各研究科で充足させる。そのため、各入試区分での受験者ニーズに合った学生募集イベントを実施し、それぞれの入試区分に適用した受験生増をめざす。 2. 収容定員を念頭においた入学者確保を意識する。 3. 退学者減少に向けての取組や対策を検討する。	Ⅲ	1. 志願者確保に向け、首都圏では、入試広報部が学生募集活動の一環として行う高等学校への訪問、出張講義及び説明会により、本学の強みである提携病院との連携や学修環境の充実さ、各学部の学びの特色をわかりやすく丁寧に説明することや、大学案内や大学Webサイト及びSNSを活用した学生募集活動により、高校生の関心を高め、本学を志願先として検討させる取り組みを引き続き行った。また、高大接続を強化するため各高校の進路指導の目的を踏まえながら、高校側のニーズに合った独自の出張講義を提案、実施した。 また、和歌山看護学部では、学部のPR 機会を持つために、高等学校内で開催される出前授業や進学説明会に力を入れ、和歌山県下の高等学校の進路指導担当者への直接訪問を行い、各高等学校で独自の大学説明会や進学相談会を実施した。学生募集担当者が和歌山県下の高等学校を訪問し、高等学校での大学説明会、進路説明会、入試説明会を実施した。また、高校生が来校して実施する体験講義や和歌山看護学部教員が各高等学校で行う出張講義も実施した。 上記の活動により、各学部看護学科では、収容定員を踏まえた入学者を確保することができた。 2. 医療保健学部医療栄養学科は、令和6年度に管理栄養学専攻と臨床検査学専攻の2専攻を設置したことにより、学科入学定員100名に対する入学者数は、管理栄養学専攻66名、臨床検査学専攻14名の学科合計80名となり前年（54名）に比べて増加させた。令和6年度に実施した令和7年度入試では、管理栄養学専攻52名、臨床検査学専攻40名の合計92名の入学者となり、医療栄養学科の入学定員充足まであと少しとなった。学科の収容定員充足率（5月1日現在）は、令和4年度0.86、令和5年度0.72、令和6年度0.67、令和7年度0.65となった。また、医療保健学部医療情報学科は、入学定員80名に対する入学者は、令和4年度53名、令和5年度48名、令和6年度33名、令和7年度26名と推移し、令和2年以降急激な入学者減という課題に直面している。学科の収容定員充足率（5月1日現在）は、令和4年度0.87、令和5年度0.83、令和6年度0.67、令和7年度0.48となった。 学科単位でみると、医療栄養学科、医療情報学科ともに令和6年度から急激に収容定員充足率が下がり、0.7を下回っていることを踏まえ、医療保健学部の学科統合・再編計画を新たに実行することとし、文部科学省に対し、医療保健学科の設置の届出を行うことにより、今後、医療保健学部の収容定員充足を図っていく。 3. 出席が芳しくない学生について、教職員が学務システムのCampusPlanからのアラートによる監視ができるようシステムを構築し、令和6年度にはテスト運用を行い、令和7年度中に本運用に移行できるよう検討を進めている。また、保護者向けのポータルとしてアンシンサイトを導入し、令和7年度から学生の学修実態を保護者と共有することにより、退学予備軍を早期に洗い出してフォローアップしていく取り組みを進めているところ。				

第3期中期計画	評価区分	令和5年度実績	令和6年度計画	評価区分	令和6年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
4. 和歌山看護学部の実員増を検討する。 「評価指標」 ・毎年度の入学実績の検証 ・上記にともなう収容定員の検証 ・退学者動向の把握 ・（和歌山看護学部の定員検討のための）入学定員超過率（1.15）の状況の確認 【計画30】（入試広報部） 全学部・全学科の入学定員確保に向けて、募集活動の強化と高大連携・高大接続の構築を図る。 「計画達成のための方策」 1. 新学習指導要領に準じた出張講義の創出と高大接続関係の強化を図る。 2. オープンキャンパスや入試説明会などイベント内容の充実を図るとともに、様々な方法での情報発信の強化を図る。 3. 大学案内及び大学紹介パンフレットの刷新とSNS等情報発信の強化を図る。 4. 地域性を重視した高校訪問活動（塾等含む）の強化を図る。 <									

第3期中期計画	評価区分	令和5年度実績	令和6年度計画	評価区分	令和6年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
【計画31】（和歌山看護学部） 入学の意思の高い優秀な学生を確保するために、多様な入試選抜の下、受験者数を維持する。 「計画達成のための方策」 1. 選抜区分ごとの受験生数を維持し、受験延べ人数400名を維持する。そのために、広報活動と共に大学説明会、出前授業、1日体験入学を実施する。 2. 受験者の多い県内高校との連携協定を推進し、現在の連携高校4か所を8か所まで増やす。そのために、連携高校への大学説明会、出張講義と連携校出身学生の母校訪問での交流を1回以上行うとともに、本学部教員と高校教諭との教育指導に関する意見交換会を1回開催する。 <									

第3期中期計画	評価区分	令和5年度実績	令和6年度計画	評価区分	令和6年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
【計画32】（国際交流センター、研究協力部、各事務部） 国際交流センターを中核として、学生・教職員に係る海外派遣・海外研修等を実施するとともに、オンラインを活用した海外大学等との交流を拡大する。また、海外からの留学生・研究生等の受入れを推進し、大学の国際化を進め、国際的視野を持つ医療人の育成に努め、地域貢献及び地域の国際化に寄与する。 「計画達成のための方策」 1. 学生・教職員の海外派遣・海外研修等の実施及び海外からの留学生等の受入れを積極的に行うため、海外の大学や医療機関との交流締結を更に推進する。特に、国際交流センターでは従来から協力関係にあったハワイ大学とシャミナード大学との大学間提携を実現できるよう両大学に積極的に働きかける。 2. 国際的な講演会の開催など積極的に推進する。 「評価指標」 ・海外大学との交流締結数及び学生・教職員の海外派遣・海外研修等の実施及び海外からの留学生等の受入れ数、海外研修実施に伴う参加者の満足度 ・国際的な講演会等の開催状況	Ⅲ	（国際交流センター、研究協力部） 1. グリフィス大学との大学間連携の更新は、グリフィス大学担当者の変更によって作業が遅れたためできなかったが、次年度4月中に更新は完了する予定である。同大学との海外研修プログラムに関しては、令和5年9月に第5回グリフィス大学オンライン研修を実施し16名が参加した。さらに令和6年3月に4年半ぶりにグリフィス大学現地研修を実施した。参加者は46名と近年で最多であった。参加学生に対する実施後アンケート調査（回答者38名、回答率82.6%）では、研修プログラム全体に対する評価は「大変満足」「まあまあ満足」を合わせると100%であった。 ・ハワイ大学、およびシャミナード大学との提携は、両大学の教職員スタッフの大幅な変更などにより、本学との研修プログラムは一時休止状態となっている。今後どのような連携やプログラムを実施できるか、両大学と模索中である。 ・中国の燕山大学からの申し入れを受けオンライン交流会を令和5年12月に実施した。両大学各10名ずつ、20名が参加した。	【年度計画32】 1. 大学間提携大学との連携関係をさらに深めるために、協力的なプロジェクトについて提携大学と検討し、提携内容をさらに充実させる。 2. 国際的な講演会の開催など積極的に推進する。 「評価指標」 ・海外大学との交流締結数及び学生・教職員の海外派遣・海外研修等の実施及び海外からの留学生等の受入れ数、海外研修実施に伴う参加者の満足度及び協力的なプロジェクトの実施状況 ・国際的な講演会等の開催状況	Ⅳ	（国際交流センター、研究協力部） 1. 令和6年4月にオーストラリアのグリフィス大学との3年間の大学連携を更新した。国際交流委員会では、令和6年度から海外研修をオンライン1回、現地研修1回と実施することとし、オーストラリア研修とハワイ研修をそれぞれオンラインと現地研修とで交互に実施することとなった。それに従い、令和6年度は、9月にグリフィス大学オンライン研修、令和7年3月にはハワイ大学現地研修を実施した。 ・9月のグリフィス大学オンライン研修では、学部生・研究科生・教員16名が参加し、オーストラリアの医療、看護、臨床栄養、医療情報について講義を受けた。実施後アンケートでは100%が、「現地研修に参加できないが、海外の医療に関して学びたいと思っている学生たちにとっては、オンライン海外研修は効果的な学習の機会を提供するもので、今後も継続を望む」と回答している。 ・令和7年3月のハワイ研修に関しては、従来研修で連携していたハワイ大学看護学部やシャミナード大学が学部内再編のために受け入れが困難ということで、ハワイ大学アウトリーチカレッジが実施している2-week New Intensive Cours of English(NICEプログラム)に希望学生を派遣することになった。23名の学生が参加して、2週間の集中英語講座に参加した。宿泊は学生の希望によりハワイ大学の寮あるいはホームステイが選択された。実施後アンケートでは、研修全体に対する満足度は、大変満足71%、まあまあ満足29%を合わせると100%、また、同じく100%がこの研修を他の学生にも勧めたいと回答し、非常に高評価を得た。				

第3期中期計画	評価区分	令和5年度実績	令和6年度計画	評価区分	令和6年度計画達成状況	評価区分	自己点検・評価委員会	評価区分	内部質保証推進会議
	IV	2. (国際交流センター、研究協力部) 令和5年度には4回の国際的な講演会を実施した。9月にバングラディッシュの医師S. A. ナイーム氏を五反田キャンパスに招いて、対面およびオンラインの特別講演会「バングラディッシュの医療・介護の現状と未来」を実施した。申込者数133名。またオンラインによる3回にわたるリレー講演会を以下の通り実施した。(申込者数173名) 10月：「アメリカの医療事情」(講師：安西耕氏)、11月：「国際比較からみる女性特有の健康課題」(小川真里子氏) 12月：「ベトナムの医療現場から考える国際医療協力」(講師：森山潤氏、勝山なおみ氏) 申込者数173名。 IV (世田谷事務部) ・9月に台湾秀傳医療グループの病院、老人ホーム、産後ケア施設を訪問(医療情報学科、学生5名/教員2名) III (千葉事務部) 「世界の医療ケアを知ってみよう！」リレー講演会(3回)の参加推奨を行った。 「バングラディッシュの医療・介護の現状と未来」特別講演会の参加推奨を行った。 中国の燕山大学との初オンライン交流参加学生を推薦した。 年度末に学部活動報告を行い、情報共有を行った。実施についてまとめ、成果共有を2024年前期に行う予定である。 III (和歌山事務部) ・学術交流協定を締結しているナムディン大学の卒業生で医療従事者2名(ベトナム人介護士)と学部生5名、大学院生1名が参加し交流会を開催した。		IV	(国際交流センター、研究協力部) 2. 令和6年度の国際講演会の計画としては当初2～3回としていたが、以下の通り3回の国際講演会をオンラインで実施した。 10月22日：「フィンランドはなぜ世界一幸せな国に選ばれ続けるのか」(講師：久末智実 タンペレ大学博士課程在籍中)。11月16日：「多職種間のチームワーク・コミュニケーションを向上させるシミュレーション訓練」(講師：Dr. Lorrie Wong ハワイ大学看護学部教務担当副学部長)。12月10日：「アフリカでの経験から看護師の視点で考える国際保健への貢献とキャリア開発」(講師：坂本琢美 メプラジャパンコンサルタント/長崎大学熱帯医学グローバルヘルス研究科) 申込者数117名。 (和歌山事務部) ・近畿圏内に在住の外国人医療従事者(ベトナム)3名と本学部学生12名が参加し交流会を開催した。				